

令和5年度鳥取県自主防災組織等知事表彰受賞者名簿及び功績概要

【功労表彰】

※敬称略

受賞団体	功績の概要
<p>鳥取市 おもかげ 面影地区自主防 災会連絡協議会</p>	<p>面影地区は旧来からの集落と新興住宅団地とで形成される住宅地で、15の町内会が構成されており、地区の中心にある面影山（標高100m）は急峻な地形の場所もあり、土砂災害の危険性に加え、袋川と大路川に囲まれているなど、水害の恐れもある地域となっている。</p> <p>平成19年8月鳥取県東部地区に大雨警報による土砂災害が発生したこと等により、地区内でも防災組織の結成意識が高まり、平成20年7月地区自主防災組織が発足。結成当初は消火訓練が中心だったが、住民の意識が高まり、平成21年から2年を要して地区まちづくり協議会と共同で防災マップを作成し全世帯へ配布。</p> <p>平成23年の東日本大震災後、避難所運営がクローズアップされ、当地区でも従来の消火訓練等に加え、災害時の避難所運営の方法について協議を重ね、電気自動車を利用した非常食の体験訓練や15町内会に配備した非常用発電機の作動訓練等、より具体的な訓練へと移行。</p> <p>訓練では事前に目標を定め、実施した後は事後検証を行うよう心掛け、数々の気づきを次回の訓練に生かすこととしている。</p>
<p>米子市 いまづ 今津自主防災会</p>	<p>毎年、市の補助金（防災訓練等及び防災資機材）を活用して、消火訓練や資機材の定期点検を実施している。</p> <p>また、支え愛マップを作成し、地区における避難支援体制の構築を図っており、今後は地区内全ての要配慮者に個人情報の提供にかかる同意確認を行い、個別の避難支援体制の確立を検討している。</p> <p>令和4年度には、当該マップを活用した避難訓練を実施し、自治会の班ごとに安否確認から声かけ避難を行っている。</p> <p>地区内に、津波災害警戒区域や2級河川があることから、大地震発生時に備えた避難経路の確認や草刈時における河川護岸の点検をしている。</p> <p>このように、継続した防災活動を行っていることや地域の避難支援体制の構築を図る等、地区全体で防災に取り組む姿勢は、地域防災力の向上に大いに貢献しており、他の模範である。</p>

<p>倉吉市 ひがしがもしんまち 東鴨新町自治公 民館消防部</p>	<p>平成 16 年 11 月 1 日、東鴨新町自治公民館消防部を結成し、同日、市に自主防災組織として登録。</p> <p>令和元年 9 月、奥津似ため池が決壊した場合の水の到達時間等、また、要救護者宅を示した「防災福祉マップ（支え愛マップ）」を作成した。さらに、防災福祉マップを全戸に配布し説明を行った。</p> <p>令和元年 11 月、防災福祉マップを活用し、指定避難所である県立倉吉養護学校への避難訓練を実施した。</p> <p>令和 2 年から 4 年にかけての 3 年間は、避難訓練の実施を計画するが、コロナ禍のため中止とした。</p> <p>令和 5 年 5 月、防災福祉マップの更新を行った。</p> <p>令和 5 年 5 月、鳥取県水防訓練の実施に伴い、東鴨新町で実際に河川の増水を想定した避難訓練を実施し、段ボールベッド組立訓練も同時に行った。</p>
<p>南部町 みなみ 南さいはく地域 振興協議会</p>	<p>平成 19 年 4 月 15 日、南さいはく地域振興協議会を発足。</p> <p>令和元年 6 月 30 日、南部町防災訓練の中で土のう作成を実施した。（各集落に 1,400 枚の袋を配布）</p> <p>令和 2 年 10 月 31 日、南部町防災訓練の中で安否確認や避難経路確認等の訓練を実施した。（4 集落が参加）</p> <p>※令和 2 年度から、各集落に一時避難場所看板を設置し、さらに、各集落に支え愛防災マップを配布した。（毎年度、改定を実施している。）</p> <p>令和 3 年 6 月 27 日、南部町防災訓練に参加したが、コロナ禍の影響により 2 集落の参加にとどまった。</p> <p>令和 4 年 7 月 14 日、段ボールベッド組立訓練を実施。</p> <p>令和 4 年 10 月 30 日、南部町・日南町合同広域避難訓練に大木屋地区が参加。それ以外の地区は別で連絡体制の確認等の防災訓練を実施した。</p>
<p>日南町 うげさわ 菅沢自治会</p>	<p>菅沢自治会は、日南町北部に位置する地区で、町内でも人口減少が進んでいるが、地域内の繋がりや防災意識が高く、町が開催する防災行事等にも積極的に参加している。</p> <p>令和 2 年度に町消防団秋季消防演習が実施された際は、自衛消防団の構成員が参加し、可搬ポンプを使って他の自衛消防団ポンプとの中継送水訓練を実施した。</p> <p>令和 3 年度に隣接する南部町から、災害時の避難経路が断たれた事例を踏まえ、町を跨ぎ広域避難をさせてほしいと打診があった際は、当該隣接地区の状況を理解し、安全な避難のための協力を了承した。広域避難の具体的な実施に向けては、関係者で複数回協議を行い、令和 4 年 10 月 30 日には、避難対象者も実際に参加して広域避難訓練を実施した。訓練では、避難者の受け入れを行う自治会の構成員や自衛消防団が参加し、受け入れ手順などを確認した。</p> <p>上記のとおり、広域避難の受け入れなど共助の意識が高い地域であり、平時からの防災意識や消防訓練は地域防災力向上に寄与しているのはもちろん、新たな広域避難の取組など、町境を越えた地域防災力向上にも寄与している。</p>